

雜 錄

英國最近3ヶ年鋼材生産高(單位千噸)

(Iron and Coal Trades Review March 11, 1932)

品 目	1929年	1930年	1931年
タイヤ、車輪、車軸 其他のフォーデンク	243.3	237.8	143.2
ボイラー用鋼板	81.0	59.0	33.1
厚板 1/8 吋以上	1,360.0	1,040.8	533.8
薄板 1/8 吋以下	595.2	444.5	331.2
鋳力板及黒板	879.8	814.4	717.4
亜鉛引薄板	842.9	579.6	446.9
レール 50 封度以上	577.3	427.8	335.9
レール 50 封度以下	63.6	60.9	37.1
トラムレール	34.4	30.7	23.7
枕木及繼目板	75.2	81.5	80.5
形、丸 平	2,153.4	1,764.3	1,394.4
線 材	248.1	233.0	226.1
フープ及ストリップ	338.8	221.1	183.3
冷間壓延ストリップ	58.8	53.2	50.0
發條 鋼	72.9	71.4	52.4
合 計	7,624.7	6,120.0	4,689.0

(M M)

印度のタタ鐵鋼會社最近事情

(Iron and Coal Trades Review, Feb. 12, 1932)

印度駐在英國主席商務官 Thomas M. Ainscough 氏のタタ鐵鋼會社に關する本國政府宛報告次の如し。(1931年3月31日に終る會計年度中の生産状態並在ジャムセドプル工場設備要項)

(1) 銑鐵産額

1931年3月31日現在高爐數5基、銑鐵産額714,329噸、工場使用銑鐵高602,223噸、工場用として生産せる滿侖鐵6,945噸。

(2) 平爐及轉爐

1931年3月31日現在數、酸性轉爐3基、平爐10基、鋼塊産額平爐鹽基性鋼243,875噸、2聯式鹽基性鋼380,664噸。

(3) 壓延工場

1931年3月31日現在數、分塊工場2、軌條工場2、厚板工場1、小形棒鋼工場4、薄板工場9、35吋粗ロール工場1、半製鋼生産高一分塊工場533,614噸、シートバー及ビレット工場—ビレット117,406噸、シートバー及スリパーバー71,199噸、ティンバー及平57,451噸、鋼材生産高—軌條30封度以下1,845噸、繼目板(1級品)6,285噸、枕木(1級品)2,237噸、アングル、チャンネル及T形鋼52,732噸、ピ

ーム31,184噸、丸、角、平、八角形及タイバー73,621噸、厚板34,737噸、薄板1/8吋以下23,040噸、亜鉛引薄板26,450噸、販賣用ブルーム、ビレット2,801噸、計366,647噸外に販賣用タイバー、スリパーバー67,061噸、合計433,708噸。

かねて改造擴大中であつた“D”銑鐵爐は1930年11月1日から操業を開始した。

タタ鐵鋼會社は同年度に於て750,000磅の利益を擧げ内585,000磅を工場原價償却費に15,000磅を炭坑の同費目に充當した。配當は第1及第2優先株に支拂はれた。不景氣にも拘らず鋼塊及鋼材の生産高は會社從來の記録を破つた、之れに反し印度鐵鋼會社は世界銑鐵價格の低落に禍せられ極めて難境の年を送つた。(M M 生)

獨逸と瑞典との鐵鑛石賣買契約價格と契約噸數の減額 (Iron and Coal Trades Review, Feb. 26, 1932)

獨逸鑛業時報の報ずる所に依れば昨年11月及12月の兩月に對する鑛石引渡高の減額に關しウェストフアリアの鐵鋼工場と瑞典のグレンゲスベルグ會社との間に取り結ばれた契約は、この程延長せられたが恐らく本年1月及2月分迄適用せらるゝことになるであらう(譯者謂ふグレンゲスベルグ會社との賣買契約は1942年迄の長期契約で此れが爲獨逸の製鐵業者は經濟難の今日苦しい重荷を背負つて居る次第である。工場には鑛石のストック夥しく、從つて屑鐵の低廉なるものあるにも拘らず鑛石に投下せる資本の一部を回收せんが爲め屑を使用せず専ら鑛石を使用して居ると言ふ) 瑞典の採鑛業者が其の買手に與へた救済は契約に定めた引渡噸數の約1/2の減額と價格の値下とである。現在引渡されつゝある鑛石に對しては契約面の高價格に依らずして現在市價と殆んど同じ價格で仕拂ふことになつて居る。尙同紙の報ずる所に依れば、獨逸と瑞典の當事者間には近く新に協商せらる所あるべく、獨逸側に於ては瑞典側の了解讓歩を期待してゐるも獨逸側の願望に瑞典が全く應諾するかは確かでない、然しながら問題の重大性に鑑みれば兩者間に或る程度の解決を見るべきものと思料せらる。獨逸の消費者は瑞典供給者側の難境をも認めねばならない。瑞典のキルナ(Kiruna)鑛山に於ては新年以來一週僅に三日の作業を行ひつゝある状態であつてナービイク(Narvik)港の鑛石ストックは2,000,000噸に及んで居る有様である。

又グレンゲスベルグ會社の鐵石輸出高は著しき減少を示し昨年は 3,503,000 噸を算したに過ぎなかつた (1929 年 9,546,000 噸、1930 年 7,952,000 噸)

又ナーヴイク港のみの輸出高に就て見るに 昨年の輸出高は 1930 年の 4,899,000 噸に對して 2,141,500 噸に減じ一方ルーリア (Lulea) 港昨年の輸出高は前年の 2,055,700 噸から 952,100 噸に激減した。尙同紙には 1931 年に於ける前記兩港からの 仕向地別鐵石輸出高の興味ある表を掲げて居る次の如し。

仕向地別	ナーヴイク港	ルーリア港
獨逸	1,559,700	326,800
チエコスロバキア	—	461,600
英國	284,100	49,900
合衆國	164,500	28,700
白耳義	101,800	—
和蘭	22,400	45,900
波蘭	—	24,900
其他	9,000	14,300
合計	2,141,500	952,100

尙鐵石の輸出高は 瑞典のみならず其の他の諸國に於ても同様程度の減少を示した。例へば 西班牙に於けるビルバオ地方からの輸出高は 昨年は前年に比し 50 萬噸を減じ佛蘭西諸港からの輸出高も著減した。又北米に於ける大湖地方からの引渡高は

1930 年の 46,500,000 噸、1929 年の 65,300,000 噸に對し昨年は僅に 23,500,000 噸に激減した。(M. M 生)

合衆國 1931 年主要製鋼會社の損益 主要製鋼會社 27 社の欠損合計 14,622,526 弗、之れに對し 1930 年は 168,300,646 弗の益金、小會社の記録は慘鼻を極む (Iron Age, March 24, 1932.)

製鋼屢延作業に従事する 27 社の 1931 年中に於ける損益状態に就て見るに 1930 年の益金 168,300,646 弗に對し合計 14,622,526 弗の純欠損を示した。次表に示す 27 社は合衆國製鋼能力の少くとも 9 割 5 分を占むるものであつて其の内益金を報ずるもの僅に 10 社に過

ぎない。

1930 年に於ては、前記 27 社の内益金を報じたるもの 18 社を數へ欠損は一例を除き二流會社のみに限られて居た。1931 年の益金にはユー・エス・スチール、コーポレーションが報じた 19,341,659 弗の再び見ることが出来ない特別収入を含んで居る。同社は作業状態から見れば益金を擧げることは殆んど不可能と考へらるゝのである。若し此の數字が前年との比較に含まるゝとすれば昨年の純欠損額は 33,964,185 弗に達するであらう。一流製鋼會社 10 社の内昨年益金を報じたるもの僅に 4 社、内ユー・エス・スチール、コーポレーション及ベスレヘム製鋼會社の 2 社は収益頗る減退し漸やく優先株の配當を行ひ得るに過ぎなかつた。前年は以上一流會社の内 1 社のみが欠損を報じ他の多くは普通株に對し可なりの配當を行つた。

概して言へば 主として鋼板類の生産に従事せる二流會社の状態は最もみじめなものであつた。然しながら、鉄力板のみを製造する マッキースポーツ鉄力板會社と鉄力板の大生産能力を有する グラナイトシティ製鋼會社とは別物であつた。昨年中鋼材の内利益を擧げ得たのは殆んど鉄力板のみと言つてよい。レパブリック製鋼會社、ヤングスタウン、シート、エンド、チューブ會社の如き一流會

1931 年と 1930 年とに於ける製鋼會社の損益状態比較表

會社名	損益		一株當り所得	
	1931 年 弗	1930 年 弗	1931 年 弗	1930 年 弗
Acme Steel Co.	372,027	940,949	1'08	2'74
Allegheny Steel Co.	50,228	1,610,292	1'50 厘	2'25
American Rolling Mill Co.	缺 3,098,445	114,094	0'03
Atlantic Steel Co.	缺 105,805	67,276
Bethlehem Steel Corpn.	115,745	23,843,406	0'12 厘	5'26
Colorado Fuel & Iron Co.	缺 3,363,206	298,648	0'41
Continental Steel Corpn.	缺 406,584	缺 37,908
Crucible Steel Co. of America	缺 2,016,517	4,045,122	4'59
Eastern Rolling Mill Co.	缺 514,888	缺 320,955
Follansbee Bros. Co.	缺 849,992	缺 451,970
Granite City Steel Co.	332,309	700,716	1'13	2'39
Gulf States Steel Co.	缺 976,230	缺 815,334
Inland Steel Co.	1,263,600	6,493,967	1'05	5'41
Jones & Laughlin Steel Corpn.	缺 2,283,459	9,093,287	8'64
Laclede Steel Co.	148,416	451,577	0'71	2'19
Ludlum Steel Co.	缺 99,144	缺 433,697
Midvale Co.	750,116	1,403,728	3'75	7'01
McKeesport Tin Plate Co.	1,952,028	2,503,897	6'51	8'34
National Steel Corpn.	4,443,323	8,415,822	2'06	3'91
Otis Steel Co.	缺 1,571,342	868,729	0'07
Republic Steel Corpn.	缺 9,634,153	缺 3,521,003
Sharon Steel Hoop Co.	缺 1,396,995	752,803
Superion Steel Corpn.	缺 492,372	358,924
Scullin Steel Corpn.	缺 499,289	163,692	1'63 厘
United States Steel Corpn.	13,038,141	104,421,571	3'62 厘	9'11
Wheeling Steel Corpn.	缺 3,339,139	7,650,887	9'63 厘
Youngstown Sheet & Tube Co.	缺 7,040,899	7,036,132	5'17

社は、大缺損を報じて居る。因に昨 1931 年に於ては 1930 年より良好な業績を示せるものは 1 社もない。

(M. M. 生)

印度 1931 年の銑鐵輸出入 (Iron and Coal Trades Review, March 18, 1932)

1931 年に於ける英領印度の銑鐵輸出入高次の如し。

輸入	1931 年	1,283 噸	(殆んど全部英本國より)
	1930 年	3,106 噸	
輸出	1931 年	318,694 噸	
	1930 年	502,629 噸	

1931 年の輸出先別噸數次の如し。

英本國	51,600 噸	獨逸	14,552 噸
日本	157,116 噸	合衆國	60,121 噸
其他	35,305 噸		(M. M. 生)

佛蘭西の 1931 年に於ける滿僊鑛石輸入高 (Iron and Coal Trades Review March 18, 1932)

昨年に於ける佛蘭西の滿僊鑛石輸入高は 482,746 噸(1930 年 715,053 噸)に達し、内 135,024 噸は英領印度より、30,965 噸は其他の亞細亞諸國より 3,893 噸はブラジルより、1,590 噸は西班牙より 136,979 噸は露西亞より 31,070 噸は英領西亞弗利加より、30,765 噸は獨逸より 3,442 噸は瑞西より殘餘は其他の國より輸入した。(M. M. 生)

1931 年中に於ける日本の印度銑輸入高 (Iron and Coal Trades Review March 16, 1932)

1931 年中に於ける日本の印度銑輸入高は 9 月 30 日迄に於て合計 110,000 噸に達したが 1930 年及 1929 年の數字に比すれば著しく減少した。(1930 年 200,000 噸、1929 年 400,000 噸) 銑鐵の輸入價格は低落して 9 月には 25 圓となつたが其の後ルーピーの下落に伴ひ一層低落し最近には 21 圓乃至 22 圓の低相場を現出するに至つた。

(M. M. 生)

ルクセンブルグの 1931 年中鐵鑛石の産額 (Iron and Coal Trades Review March. 18. 1932)

1931 年に於けるルクセンブルグの鐵鑛石生産高は 1929 年の 7,546,989 噸、1930 年の 6,608,259 噸に對し 4,780,847 噸に減じた。此の生産高の著減は鐵鋼業の不振と輸出鑛石に對する輸出税の高きとに基因せるものであつた。

(M. M. 生)

佛蘭西の 1931 年中壓延鋼材生産高 (Iron and Coal Trades Review. March. 18, 1932)

1931 年中に於ける佛蘭西の壓延鋼材生産高次の如し。

販賣用半製品	1,329,000 噸
タイヤ	56,000
車軸其他のフォージグ	74,000
軌條	392,000

枕木	116,000
軌條附屬品	33,000
ジョイスト其他の形物	732,000
線材	290,000
ワイヤー	167,000
フープ	218,000
チューブ用半製品	54,000
チューブ	150,000
特殊棒鋼	154,000
市場向棒鋼	1,927,000
鋳力板	90,000
薄板 5mm 以下	585,000
厚板 5mm 以上	310,000
平鋼	60,000
鋼材合計	5,408,000

佛蘭西の 1931 年中鐵鑛石産額 (Iron and Coal Trades Review, March 18, 1932)

1931 年 12 月の佛蘭西鐵鑛石生産高は 11 月の 2,719,381 噸に對し 2,694,679 噸に達し月末現在山元ストックは前月の 4,149,866 噸に對し 4,140,985 噸に達した。生産高の年間合計は前年の 48,512,000 噸に對し 38,481,000 噸に減少した。

(M. M. 生)

日本の 1931 年中鋼材供給高 (Iron and Coal Trades Review, March 18, 1932)

次の數字は 1931 年中に於ける日本の鋼材供給高を示す。

品目	1931 年	1930 年
棒鋼	661,842 噸	779,757 噸
厚板、薄板	646,086	720,159
軌條及附屬品	118,257	317,600
タイヤ及車軸	12,569	16,473
線材	240,959	191,116
鋼管	74,005	116,526
其他	8,166	11,244
合計	1,761,884	2,152,875

以上の數字に見る通り 1931 年に於ける日本の鋼材供給高合計は前年に比し約 400,000 噸を減じ居るが更に之を 1929 年の分に比較するときは 800,000 噸に減少を示して居る、1931 年の供給高 1,761,884 噸の内官營八幡製鐵所の生産高 663,000 噸民間會社の生産高 896,000 噸輸入高 202,000 噸で、鋼材の輸入高は 1931 年に於て著しく減少した、こは主として日本製造業者の外國品輸入防遏に對する努力に依つて齎らされたるものであるが、又斯業の不振も其の一原因を成すものであつた。或る特殊品を除き鋼材は各品共殆んど日本に於て製造せられ輸入に仰ぐ必要なきに至つた。鋼材の輸入高は 1,000,000 噸以上に達したることもあつたが 1929 年には 701,000 噸に減じ 1930 年には 372,000 噸に著減し更に昨年は 202,000 噸に激減した。目下日本に於ては他の鋼材に比し比較的輸入數量の多い鋼管、線材及シートパイルの生産増加に懸命

の努力を傾けつゝあるのである。然しながら金輸出再禁後市價に2割乃至3割の騰貴を示せる爲め投機商人の發する各種鋼材に對する輸入注文が増加しつゝあることを記して置く。(M. M 生)

米國ノース・カロライナ州鑛産物狀況 (昭和6年3月3日 附在ニュー・オルレアンス 佐藤領事代理報告)

最近ノース・カロライナ州政府地質技師の發表する處に依れば、同州に於ける鑛産物中 有用なるもの約40種あり内34種は曾て探掘したることあるも、現在にては17種に止れり。即ち綠柱玉、石炭、黃銅鑛、磁土、長石、金 Kyanite 石灰石、磁鐵鑛、滿俺、大理石、泥灰岩、雲母、Pyrophyllite 石英、銀、滑石等にして、其年産額約1,200萬ドルに達す、尙ほ其の外アスベスト barite, chromite, 方鉛鑛、柘榴石、石墨、赤鐵鑛、hiddmite, chalcocite, Monazite, Pyrite 石鹼石、Sphalerite 風信子鐵等の産出もあり、從來營利的に探掘せられたるも、勞銀及運賃其他の經濟關係より作業を中止せる處、其多くは一般市況の恢復と共に再掘するに至るべしと見做され、又將來アルミニウム、バリウム、カルシウム、クロミウム、コランビウム、鉛、マグネシウム、ニッケル、ポタシウム、珪素、トリウム、錫、チタニウム、亜鉛、ジルニウム等の産出も亦囁目されつゝあり。目下本州に於て採算を以て營業しつゝあるものは銅、金、鐵、滿俺及銀の5鑛物なり。今次に此等 重要鑛物に付略述す。

銅は本州鑛物中最も重要なるものにして、最近5年間の産出高は4,100萬ポンドに達す。本州銅産額より見れば前年テネシ州をも凌駕し、東部に於ける産地として重鎮を爲し、將來全米の大産地の一つたるべしと云はる。Swain 那の Fontana 地方の外に數箇所の銅産地あり、本品の世界市場に於ける價格さへ常態に復すれば、産出増加すべき見込なり。

銅の緊要なるは、銅が最良なる傳導體なるを以て電氣工業に用ひられ、又銅と錫により青銅を、銅と亜鉛により真鍮を作る等合金に用ひらる。

本州に於ける金發見の濫觴とも云ふべきは、1799年 Cabarrus 郡 Reed Plantation に於ける産出にして、當時17ポンドの金塊を掘出せりと云ふ。爾來今日に至る金産額は約2,400萬ドルに上ると云ふ。現在金坑12箇所に就き其鑛石成分を鑑定、探掘價值あるや否の調査を進めつゝありとの趣なり。本州の金鑛は概ね品質劣等にして産出量にも亦限りあるが如し。然れども23の金坑は多年間利潤を以て作業し來れり。從來本州の金坑は實際の進展狀況に比し、坑主側に於て資本を使用し過ぐる

の憾あり。之が爲本州事業に大會社を誘致すること困難なるは事實なり。金は主として貨幣及裝飾に用ゆる外、齒科材料にも亦相當使用さる。金價は光澤の如何、瑕瑾の有無、延展性の程度等に依り決せられ、純金は使用に過軟なれば大概硬度を増す爲銅を合金として使用すること茲に敘述の要なし。

本州産鐵鑛中には各種のものあり、記録上最初の鐵鑛積出は州内東部地方より英國に仕向けたるものにして、製鐵最初の船積も亦英國向けのものにして、遠く1729年に溯れり。初期に於ける製鐵場は海岸近く、泥炭産地に設立せられ、幼稚なる鍊鐵場なりしは想像に難からず、最古の木炭爐はリンコルン郡のベスピアス爐にして、之は1792年頃の建造に係るものと云はる。アヴェリ郡に於けるカーンベリー鐵山は、1880年にクランベリー・アイアン・エンド・コール會社の所有となり、爾來引續き作業されつゝあり。又本州産鐵鑛は褐鐵鑛、赤鐵鑛及磁鐵鑛の三大鑛に大別し得べしと雖、菱鐵鑛も亦各所に散在し、輒近數郡に亘り試掘行はれつゝあり。1900年以來本州の鐵産額は150萬噸、380萬ドルに達す。金屬中用途の最も廣きは鐵を以て第一とすれば、今後も世界大工業の原料たるべきは言を俟たず。

滿俺は州下數箇所に産出し、現下ロシア品の競争に因り商業的に探掘營業に従事しつゝあるは1箇所あるのみなり。本鑛の主産地は Lincoln, Surry, Madison, Cherokee, Mitchell 及 Transylvania の諸郡なり、滿俺は主として合金に用ひられ、鐵との合金に使用するもの最も多く、アルミニウム、亜鉛、錫、鉛等にも使用す又滿俺の酸化物は各種の用法あり、硝子の脱色劑、綿布のプリント染、乾電池製造、其他藥品製造に供す。

銀も亦主要鑛物たる處、本州に於ては銅、鉛及亜鉛鑛山の副産物として産出し、銀山より探掘さるゝもの無し。1931年中の産出額は僅に1萬9,000ドルに過ぎず、銀は從來貨幣鑄造に重要なる地位を占めたりしが、今日にては寧ろ寶石用、裝飾用、藥品用、寫真用とし、又金及銅との合金用として廣く用ひらるゝ傾向顯著なり。

(海外經濟事情 5.16)

内外最近刊誌參考記事目次

- Heat Treating and Forging, March, 1932.
Compressed Air Reduces Forge Hammer Cost. F. A. Kolb and R. C. Grimstad. pp. 171-173.
The Future of the Drop Forging Industry. C. H. Smith. pp. 174-177.
Surface Hardening of Aluminum-Chromium-Molybdenum Steels. W. H. Cunningham and J. S. Ashbury. pp. 178-179.
Brittleness of Zinc Coated Steel. J. S. Adelson. pp. 180-183.

Alloys in Machine Tools, Part II. D. M. Gurney. pp. 185-186.

Liquefied Petroleum Gas. H. M. Heyn. pp. 191-193.

Recent Developments in Gas Burners, Part III. W. Trinks. pp. 194-196.

Optical Hints for the Metallographer. L. V. Foster. pp. 201-202.

The Foundry, March 1, 1932.

Iron-Lined Brake Drums are Cast Centrifugally. Edward W. Beach and Edwin Bremer. pp. 30-33.

Discusses Manufacture of Titanium Aluminum Bronze. Charles Vickers. pp. 36-40.

Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 41-43.

Standardization of Horizontal Cove Prints is Desirable. Walter C. Ewalt. pp. 44-45.

Causes and Prevention of Pinholes in Aluminum Castings. D. Hanson and J. G. Slater. pp. 54-57.

Temperature Indicators are Calibrated Easily. Norman F. Hindle. pp. 58-60.

The Metal Industry (New York), March, 1932.

Institute of Metals Division Meeting—Abstracts of Papers Read. pp. 95-98.

Foundry Sand Control. A. A. Grubb. pp. 100-101.

Large Scale Brass Annealing in Gas-Fired Muffles. W. Wirt Young. pp. 102-104.

The Manufacture of Phonograph Records. R. A. Dimon. pp. 105-108.

Protection of Aluminium by Anodic Treatment. Joseph Rossman. pp. 108-110.

Calculations of Ampere-Minutes in Plating. Charles H. Eldridge. pp. 111-112.

The Metal Industry (London), Feb. 19, 1932.

Melting Secondary Brass in the Reverberatory Furnace, II. Edmund R. Thews. pp. 217-220.

Metal Lubrication and Roll Cooling in Aluminium Hot-Mill Practice. R. J. Anderson. pp. 221-223.

Some Recent Advances in Protective Coatings on Metals, I. H. Sutton. pp. 227-230.

The Metal Industry (London), Feb. 26, 1932.

Casting Artistic Metal Work. "Electrographer." pp. 241-242.

Brass, Bronze and Copper Alloys. W. R. Hibbard. p. 242.

The Metal Industry (London), March 4, 1932.

Aluminium Silicon Alloys, Their Properties and Some Applications. R. B. Deeley. pp. 273-276.

Metallisation as a Protective Process. pp. 277-279.

The Structure of Electrodeposited Metals, V. Leslie B. Hunt. pp. 283-285.

Some Recent Advances in Protective Coatings on Metals, II. H. Sutton. pp. 285-286.

The Metal Industry (London), March 11, 1932.

The Corrosion Resistance of the B. N. F. Ternary Alloys of Lead in Buildings. F. L. Brady. pp. 297-298.

The Tungsten—Molybdenum Thermocouple. D. Binnie. p. 299.

Institute of Metals—Abstracts of First Day's Papers. pp. 304-305.

Institute of Metals Meeting—General Discussion on the Testing of Casting. pp. 306-308.

Zeitschrift für Metallkunde, März, 1932.

Die Erscheinung der Reiboxydation an Elektrolytkupfer. M. Fink und U. Hofmann. s. 49-54.

Bestimmung der Poissonschen Zahl μ gewalzter Zinkbleche. H. Siegelerschmidt. s. 55-56.

Untersuchung von Duralplattblechen. K. Schraivogel und K. O. Schmidt. s. 57-62.

Galvanische Reinbleinberzüge. E. Bertl. s. 62.

Erstarrungstemperaturen der Gussbronzen und Rotgusslegierungen. O. Bauer und M. Hansen. s. 63.

Zur Kenntnis der Widerstandsfähigkeit von Kupfer, Zinnbronzen und Zinn gegen anorganische Säuren. W. Claus und H. Fincke. s. 64-66.

Festigkeitsprüfungen an Stangen und Drähten bei tiefen Temperaturen. F. Pester. s. 67-70.

(鹽澤)

Steel, March 7, 1932.

Japanese Iron and Steel Industry. James A. Rabbitt. p. 31-34.

Investigate Embrittlement of Galvanized Parts. p. 35-36.

Steel, March 14, 1932.

Steel Brake Drums are Lined with Centrifugally Cast Iron. Edward W. Beach & Edwin Bremer. p. 31-34.

Forge Furnaces Improved by Diffusion Combustion. H. M. Heyn. p. 36-38.

Steel, March 21, 1932.

New Beam Mill Rolls Wide Flange Structural Shapes, Part II. p. 31-33.

Steel, March 28, 1932.

Continuous Plate and Strip Sheet Mill Now in Operation. p. 31-33.

Ingot Casting Practice Can Improve Quality of Steel. Emil Gathmann. p. 34-35.

The Art of Welding.—a Nontechnical Resume. D. E. King. p. 38-39.

Steel, April 4, 1932.

International Exposition Buildings Feature Low-Cost Construction. Bert M. Thorud. p. 31-34.

Chrome-Nickel Steel Trim Has Concrete Backing. p. 38-40.

Soldered Joint in Corrosion-Resisting Steel Require Strengthening. V. W. Whitmer. p. 40.

Steel, April 11, 1932.

All Steel Auto Bodies are Flash Welded. p. 31-33.

Wage Plan Involves Unit of Labor Measurement. R. C. Cooper. p. 34-35.

Iron Age, March 3, 1932.

Progress in Atomic Hydrogen Welding. Samuel Martin. p. 537-540.

Addition of Vanadium Improves Properties of Medium Manganese Steels. W. C. Hamilton. p. 546-548.

Straight-Line Production Methods at Ford Assembly Plant. J. B. Nealey. p. 554-556.

Iron Age, March 10, 1932.

Tantalum Binder Improves Quality of Hard Cutting-Tool Alloy. T. H. Gerken. p. 600-601.

Copper Brazing Applications under Atmospheric Control, Part I. H. M. Webber. p. 602-604.

Aluminium Alloy Air Plane Parts Heat Treated

- by Immersion Process. J. B. Nealay. p. 606-607.
- Why Ball and Roller Bearings Require Lubrication. Maurice Reswick. p. 608-610.
- Gases Evolved from Molten Metal. Henry D. Hibbard. p. 611-612.
- Sheet Steel Cleaning by Abrasive Blast. L. D. Peik. p. 615-617.
- Iron Age, March 17, 1932.**
- "Typing" Process of Making Forging Dies Lowers Ford Costs. p. 660-661.
- Pulverized Coal System Serves Boilers, Ovens and Air Furnaces. Frank S. O'neil. p. 662-665.
- Heat Treating Important Link in Airplane Engine Construction. Herbert R. Simonds. p. 666-669.
- Copper Brazing Applications under Atmospheric Control. Part II. H. M. Webber. p. 670-671.
- Lubricants for Ball and Roller Bearings. Maurice Reswick. p. 672-673.
- Iron Age, March 24, 1932.**
- Gases in Pipe Cavity and in Gas Holes in Ingots. Henry D. Hibbard. p. 715.
- Synchronizing Oven Operations in Refrigerator Manufacture. Philp Kriegel. p. 716-720.
- Forged and Alloy Malleable Iron for Special Uses. Fred. B. Riggan. p. 728-729.
- Iron Age, March 31, 1932.**
- Machining the Buick Camshaft. Burnham Finney. p. 768-769.
- Core Conveyor Promotes Economy. Thorpe E. Wright. p. 770-771.
- Combination Forge Furnace and Steam Boiler Saves Fuel. J. B. Nealey. p. 772-773.
- Bearing Metals as Made and Used Today. C.H. Bierbaum. p. 774-776.
- Manufacturing Cold Rolled Stainless Strip Steel. F. L. Prentiss. p. 777-779.
- Blast Furnace and Steel plant, Feb. 1932.**
- Ventilation of Motor Room and Motors. Frank D. Egan & C. B. Huston. p. 167-171.
- Clearing Coal. Ralph H. Sweetser. p. 171-174.
- Bottom Cast Practice. Edmund C. Bitzer. Part II. p. 175-178.
- Automatic Control of Open-Hearth Furnaces. W. Trinks. p. 179-183.
- Are Higher Steam Pressures More Economical in Blast Furnace Plant? C. B. Thorne. p. 187-188.
- Steam from Waste Heat. R. E. Cramer. p. 189-190.
- Blast Furnace and Steel Plant, March 1932.**
- Modern Blast Furnace Operation. George W. Tobin. p. 257-258.
- Control of Turbine Compressors Applied to Bessemer Converters. A. P. Mansfield. p. 259-261.
- Bottom Cast Practice. Part III. Edmund C. Bitzer. p. 262-264.
- Hard Facing in the Steel Industry. W. A. Moore. p. 265-266.
- Effects of Machine gas Cutting on Steel Plates. L. M. Curtiss. p. 270-271.
- Electric Roll Heaters. p. 272-273.
- Recent Developments in Gas Burners. W. Trink. p. 274-279.
- Blast Furnace and Steel Plant, April 1932.**
- What Happens when Rolling Thin Sheets. W. H. Melaney. p. 335-337.
- Remote Control of Centrifugal Compressors applied to Bessemer Converters. A. P. Mansfield. p. 338-339.
- Sinter in Blast Furnace Burdens. Rebert McClurkin. p. 340-343.
- Preheating Sheet Mill Rolls. Arthur J. Whitcomb. p. 344-345.
- Welding in the Steel Plant. E. L. Quinn. p. 346-348.
- The Specific Heat of Air and Gaseous Products of Combustion. P. B. Place. p. 349-351.
- Recent Developments in Gas Burners. Part II. W. Trink. p. 352-354.
- Iron and Steel Industry, March 1932.**
- Recent Developments in Moulding Machines in Germany. H. Idlies. p. 223-227.
- Eliminating the Sheel Defect in Ingot Moulds. D. J. Thomas. p. 231-232.
- Overblowing in Blast Furnace Practice. W. McConnachie. p. 233-234.
- The Application of Nitraded Steel Parts in General Engineering. J. E. Hurst. p. 235-239.
- Metals & Alloys, Feb. 1932.**
- Press Casting. Charles Pack. p. 29-37.
- Recent Progress in Heat Treatment of Ball Bearing Races. Haakon Styri. p. 38-39.
- The Iron-Beryllium System. R. H. Harrington. p. 43-45.
- New Rustless Iron Alloy. R. P. DeVries. p. 49-51.
- Metals & Alloys, March 1932.**
- Special Austenitic Steels for Severe Corrosion Resistance. James A. Parsons & Earl Ryder. p. 56-60.
- Izett Steel. G. G. Neuendorff. p. 61-68.
- Cadmium Plating vs. Corrosion-fatigue; Pickling vs. Corrosionfatigue. Wilber E. Harvey. p. 69-72.
- Effect of pH on the Corrosion Products and Corrosion Rate of Zinc in Oxygenated Aqueous Solutions. B. E. Roetheli, G. L. Cox and W. B. Littreal. p. 73-76.
- Effect of Crystal Size on Physical Properties of Tin-base Babbitts. Ernest B. Drake. p. 77-81.
- Foundry Trade Journal, March 10, 1932.**
- The Testing of Castings. Walter Rosenhein. p. 154-156.
- The Use of Pulverised Fuel and Pulverisers in the Foundry. P. Howden. p. 157-161.
- Modern Methods of Enamelling Cast Iron. J. H. D. Bradshaw. p. 162-164.
- Foundry Trade Journal, March 17, 1932.**
- Modern Practice in Cast Iron Testing. H. W. Swift. p. 173-175.
- The Production of Ferrous and Non-Ferrous Castings for High-Class Internal Combustion Engines. S. White. p. 176.
- The Modern Blast Furnace. Geo. E. Butler. p. 177-179.
- Foundry Trade Journal, March 24, 1932.**
- Modern Practice in Cast Iron Testing. Part II. H. W. Swift. p. 187-190.
- The Practical Foundrymen. E. Longden. p. 191-192.
- Cast Iron with Higher Nickel Additions. A. B. Everest. p. 193-194.
- The Open Hearth Furnace as a Melting Medium for Malleable Cast Iron. G. R. Shotton. p. 195-196.

Foundry Trade Journal, March 31, 1932.

Light-Casting Problems. G. Moran. p. 201-204.
The Testing of Casting. p. 205-207.

Metallurgia, March 1932.

Creep of Metals. p. 155-156.
Refractory Materials. Colin Presswood. p. 169-170.
Manganese and Sulphur in Forging Steels. Archibald Allison. p. 171-172.
Developments in Non-Ferrous Metal Rolling Mills. L. Weiss. p. 173-176.
The Trend of X-Ray Analysis in Metallurgy. L. Pickup. p. 177-179.

Metal Progress, Feb. 1932.

Heat Treatment of Small Tools with Modern Equipment and Technique. David A. Nemsér. p. 23-28.
Cold Treating Metallic Alloys. H. S. Rawdon. p. 29-34.
Low Alloy Steel for Structures. Richard Tull. p. 35-38.
Strong Trough Welds made Rapidly. Gilbert E. Doan. p. 39-43.
Continuous Carburizing by Gas. R. J. Cowan. p. 44-48.
High Carbon, High Chromium Stainless. H. T. Morton & J. A. Rummier. p. 49-52.
Elinvar Hairsprings for Watches. G. E. Shubrook. p. 58-63.

Metal Progress, March 1932.

Furnaces Placed in Production Lines, Gordon T. Williams. p. 27-31.
Jigs & Fixtures Made of Welded Steel. J. R. Weaver. p. 32-36.
Aluminium Alloys in Transportation. W. Holzhauser. p. 37-41.
Stainless Versus Chrome Plate. John G. Mapes. p. 43-46.
American and Foreign Automotive Steel. Thomas H. Wickenden. p. 57-60.
Acid-Resisting Metal Used for Pickler's Racks. D. E. Stamm & J. C. Weaver. p. 61-64.
Immersion Melting with Gas. E. B. Dunkak. p. 73-77.

Metal Progress, April 1932.

Fine Finish on Metal Furniture. W. V. Morrow. p. 27-32.
Magnesium Growth of an American Industry. John A. Gaun. p. 33-38.
Controlled Atmospheres for Annealing and Welding. J. F. T. Berliner. p. 39-43.
Hardness Changed by Magnetism. Edward G. Herbert. p. 52-56.
Test for Smoothness of Machined Surfaces. F. A. Firestone, F. M. Durbin and E. J. Abbot. p. 57-59.
Calcium Improves Iron & Lead. C. L. Mantell and Charles Hardy. p. 60-65.

Stahl und Eisen, 10. März. 1932.

Über die Entschwefelung des Thomasroheisens. Edgar Spetzler u. Helmut Spitzer. s. 233-235.
Prüfung elektrischer Schweißzungen sowie Brauchbarkeit der Ummantelung von Schweißstäben durch die Ehsche Zementationsprobe. Werner Zieler. s. 236-239.

Stahl und Eisen, 17. März. 1932.

Deutsche Metallplastik aus drei Jahrhunderten. Wilhelm Pinder. s. 257-262.
Die Glühung von Qualitätsfeinblechen. E.

Marke. s. 262-266.

Stahl und Eisen, 24. März. 1932.

Das Dillgebiet und seine Eisenerze, insbesondere deren Aufbereitung. Carl Schumann. s. 281-287.
Umführungen und Rückführungsvorrichtungen an Stab- und Drahtstrassen. Emil Kästel. s. 287-289.

Die Giesserei, 4. März. 1932.

Untersuchungen an einer mit Preszluft betriebenen Rüttelformmaschine von 1000 kg. Hubvermögen. R. Walle. s. 81-88.
Granguszwalzen aus dem Basischen Siemens-Martin-Ofen. Kurt Hoffmann. s. 88-90.

Die Giesserei, 18. März. 1932.

Das Gattieren in alter und neuer Zeit. R. Bernhard Osann. s. 101-106.
Wendeplatte mit Aussparung. Gregor Linke. s. 106-108.

Die Giesserei, 1. April 1932.

Ueber „Migra-Eisen,“ ein neues Spezialroheisen für hochwertigen Gusz. II. Teil. E. Piwo-warsky u. A. Wirtzjun. s. 121-122.
Untersuchungen an einer mit Preszluft betriebenen Rüttelformmaschine von 1000 kg Hubvermögen. II. Teil. R. Walle. s. 122-127.
Gemeinschaftsarbeit oder Konkurrenzkampf zwischen Stahlgieszer und Schweißzer? Steiler. s. 127-128.

Die Giesserei, 15. April 1932.

Grundsätzliches über Gattierung und Aufbereitung von Formsand. A. Rodehüser. s. 141-145.
Beiträge zur Abnutzung gusseiserner Bremsklötze. Scharffenberg. s. 145-149.

Korrosion und Metallschutz, Jan. 1932.

Die Bedeutung der Wasserstoffaufnahme des Eisens für den Korrosionvorgang. E. Liebreich. s. 1-4.
Das Verhalten von Aluminium und Aluminiumlegierungen in Wasserstoffsperoxydlösungen. W. Wiederholt. s. 4-15.

Korrosion und Metallschutz, Feb. 1932.

Beiträge zum Korrosionsproblem. Hans Erlenmeyer. s. 29-35.

Korrosion und Metallschutz, März. 1932.

Zur Topochemie der Korrosion und Passivität. III. Erich Pietsch. s. 57-66.
Nachweis der Wasserdruchlässigkeit von Anstrichen. Haus Wagner. s. 66-68.

Kruppsche Monatshefte, März. 1932.

Danerbrüche und Dauerfestigkeit. R. Mailänder. s. 56-81.
Über die Eignung von Widia-Schneiden beim Bohren in festen Gestein. O. Müller u. H. Wohlbier. s. 89-98. (岡村)

鑄造 第4卷 第4號 昭和7年4月

鑄造技術の普及に就て 百々 初男 p. 1
鑄物工徒弟教育に就て 中西 寛人 p. 4
支那の工業 深田 静太 p. 6

海外經濟事情 第5年 第16號 昭和7年4月25日

英國造船業狀況(1931年)..... p. 35
米國ノース、カロライナ州鑛産物狀況..... p. 57

燃料協會誌 第11年 第4月號

都市瓦斯工業に就て 渡邊 扶 p. 372
 本邦瓦斯事業の將來と技術者の養成 大島 義清 p. 380
 骸炭爐瓦斯又は其類似瓦斯の工業的利用 深水 壽 p. 401
 天然瓦斯の利用 久保田勉之助 p. 440
 發生爐瓦斯利用の種々相と其發生装置に就て 保坂 文藏 p. 448
 アイデアル瓦斯ボイラー 長谷川 悌三 p. 462
 燃料配給及輸送用鋼管に就て 伴 宣 p. 481
機械學會誌 第35卷第180號 昭和7年4月
 疲勞の恢復に就て 池田 正二 p. 337
東京工業大學會報 第1卷第1號 昭和7年4月
 定性分析法創案 永梅佐一郎、加藤多喜雄
朝鮮鑛業會誌 第15卷第1號 昭和7年3月15日
 平壤無煙炭礦の石炭運搬に就て 高濱 保 p. 1
 石炭粉碎機の特性 濱田 八之助 p. 35
 北米の鑛業に就て 石川 留吉 p. 69
銲接協會誌 第2卷第4號 昭和7年4月
 井口式交流被覆電氣銲接棒 井口 庄之助 p. 213
 電氣銲接の自動化 岡本 赴 p. 220
 鑄鐵及青銅鑄物の電氣銲接 佐々木新太郎 p. 225
日本鑛業會誌 Vol. 48 No. 564 1932 昭和7年4月
 脈狀鑛床と流電々位探鑛法に依る 藤田 義象 p. 325
金屬の研究 第9卷第4號 昭和7年4月
 壓縮せる鐵粉末の電氣抵抗と その溫度關係 西山 善次 p. 139
 鐵-炭素-モリブデン系平衡狀態圖 武井 武 p. 142
 燒入研究用自記膨脹計附炭素鋼に於ける 結節狀吐粒の生因に就て 佐藤 清吉 p. 174
海外經濟事情 第5號第17號 昭和7年5月
 硫安概況
名古屋工業會々報 第109號 昭和7年5月

電氣銲接建築論 戸田 一郎 p. 16
大日本鑛業協會雜誌 Vol. 40 No. 473 昭和7年5月1日
 廻轉窯及び廢熱汽罐の熱量計算上 注意すべき一要点 高橋 英治 p. 285
 少量の苦土の存在がセメント色相並にアリット 生成に及ぼす影響(其二) 藤井 光藏 p. 291
 淺岡 勝彦
石炭時報 第7卷第5號 昭和7年5月5日
 歐洲の炭業を視て 栗原 美能留 p. 2
 洗炭に關する 2、3 の問題に就て 山口 吉郎 p. 12
 石炭問題に關する國際聯盟の報告 國際聯盟事務局東京支局 p. 35
統制經濟に關する資料 昭和7年4月15日刊
 ドイツに於ける石炭統制 東亞經濟調査局
 英國に於ける貿易統制諸提案
金屬 第2卷第5號 昭和7年5月
 電氣銲接 窪田 格太郎 p. 181
 汽船の墓場 中村 主一 p. 189
 合金の狀態圖 清水 要藏 p. 203
 ホワイト・メタル(軸承合金)に就て 楠瀬 四郎 p. 211
機械學會誌 第35卷第181號 昭和7年5月
 直ぐに使へる軸對稱殼の公式と數表 奥田 克己 p. 400
 長尺刃物の研削仕上に就て 和 栗 明 p. 412
 鉛の機械的性質に就て(第6報) 中原 益治郎 p. 118
 切口の漸變する片持棒及梁の彈性 曲線式の解に就て 澤田 正雄 p. 432
 アムスラー式ボーラー・プラ ニオメーターの修正に就て 岡 剛 p. 450
電氣學會雜誌 第52卷第5冊 昭和7年5月
 軌條の波狀磨耗理論 前橋 俊一 p. 387

昭和7年2月中重要生産月報拔萃 (商工大臣統計課)

	2月中	前月	前年同月	1月以降累計	
				昭和7年	昭和6年
金 gr	989,789	945,291	1,056,806	1,934,080	1,991,405
銀 gr	12,510,551	12,386,449	13,611,180	24,897,000	26,851,631
銅 kg	6,001,764	5,908,211	6,319,138	12,009,975	12,249,355
硫石 黃炭 ㊦	4,944	5,173	4,161	10,117	8,660
石油 (原油) 100 ㊦	2,087,815	2,184,088	2,115,863	4,271,903	4,365,602
セメント ㊦	205,077	222,787	241,833	427,864	498,424
過燐酸石灰 ㊦	285,924	286,562	287,672	572,486	596,900
硫安 ㊦	99,027	92,227	70,087	191,264	139,968
硫 ㊦	36,458	37,237	24,744	73,695	47,855

昭和7年3月中(八幡)製鐵所銑鋼生産高

銑 鐵			銅 塊			銅 材		
當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計	當月生産高	前月比較	1月以降累計
65,151	+ 12,119	172,515	103,242	+ 12,527	262,321	88,573	+ 8,851	238,190